

令和6年度第1回 研修会 アンケート集計結果

日時：2024/7/26（金）19:00～20:45

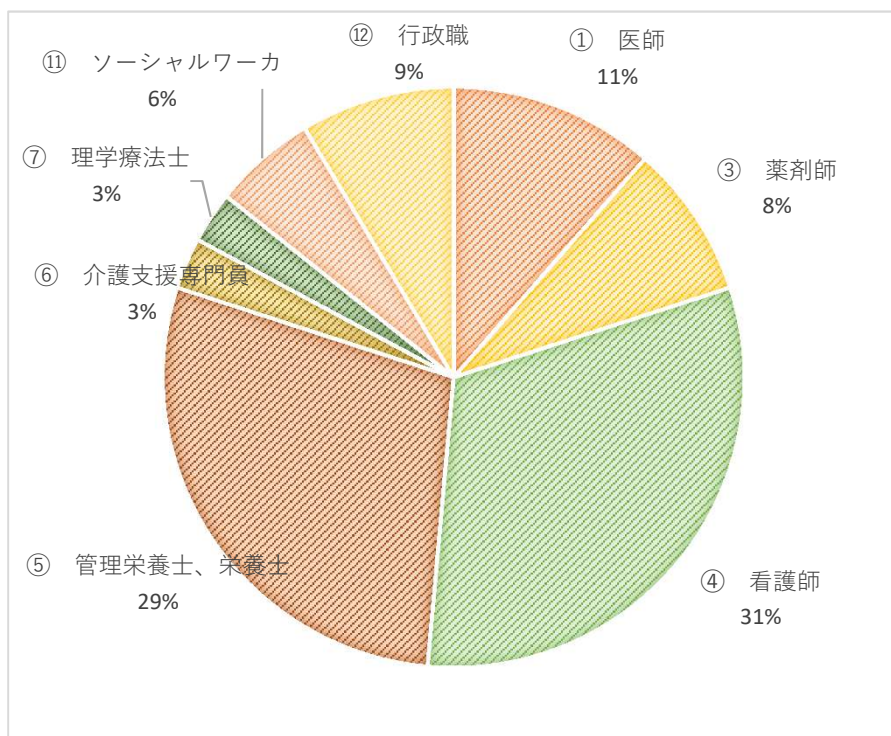
場所：大川三瀬医師会館講堂

講演：「聖マリア病院の栄養情報連携の取り組みと課題」、「地域での栄養情報共有とアザレアネット」

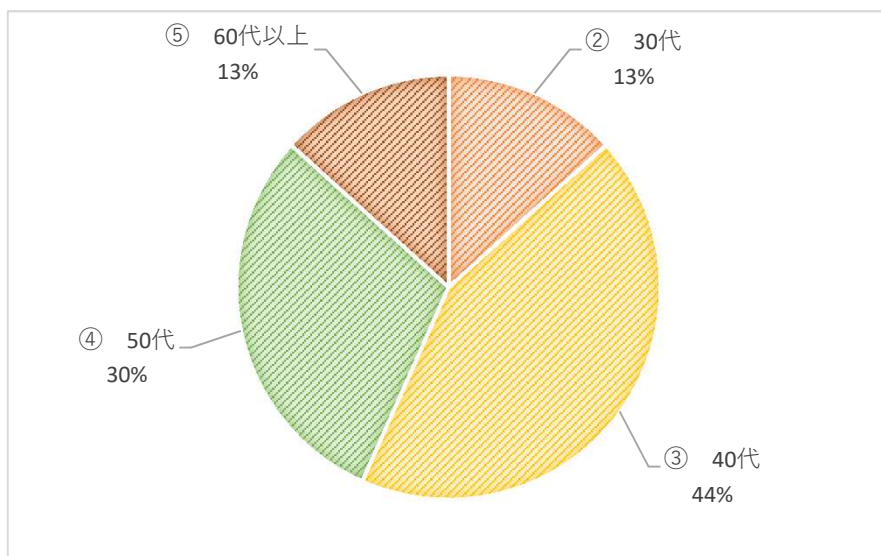
講師：立野先生（栄養情報連携）、荒木先生（栄養情報共有とアザレアネット）

参加人数： 47人 回答者数 35人 回収率 74%

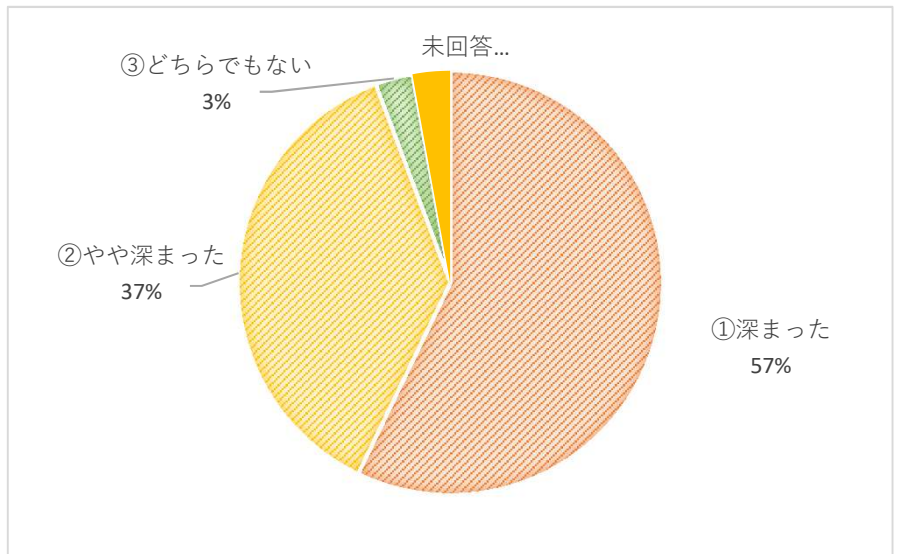
1. 職種	
① 医師	4
② 歯科医師	0
③ 薬剤師	3
④ 看護師	11
⑤ 管理栄養士、栄養士	10
⑥ 介護支援専門員	1
⑦ 理学療法士	1
⑧ 作業療法士	0
⑨ 言語聴覚士	0
⑩ 介護福祉士	0
⑪ ソーシャルワーカー	2
⑫ 行政職	3
⑬ その他	0
計	35



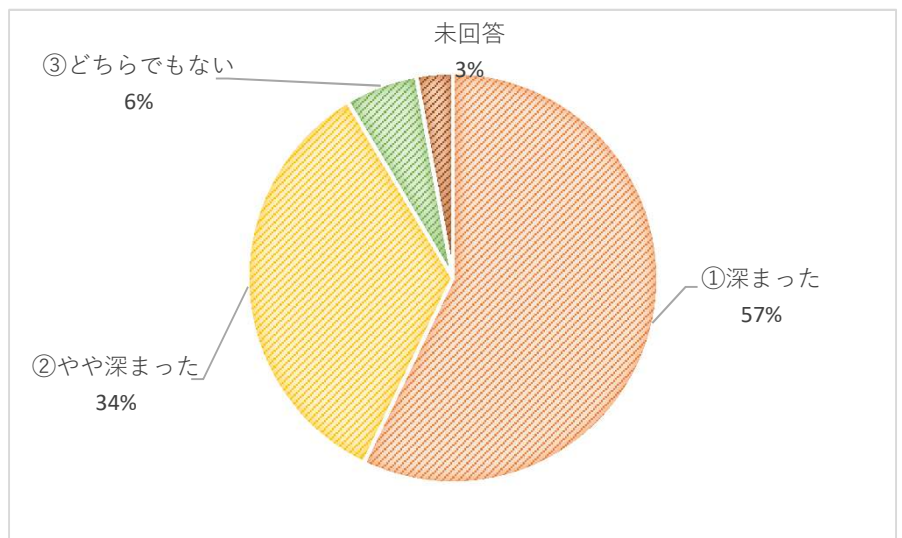
2. 年代	
① 20代	5
② 30代	4
③ 40代	13
④ 50代	9
⑤ 60代以上	4
計	35



4. 理解度 (立野氏)	
①深まった	20
②やや深まった	13
③どちらでもない	1
④あまり深まらなかった	0
⑤深まらなかった	0
未回答	1
計	35



4. 理解度 (荒木氏)	
①深まった	20
②やや深まった	12
③どちらでもない	2
④あまり深まらなかった	0
⑤深まらなかった	0
未回答	1
計	35



5. 今回の研修で特に印象に残ったこと

聖マリア病院で、すでに地域に向けて連携の勉強会を開催されていたのには安心しました。コロナ渦など

で止まっていた様ですが、これから再開して他病院にも広げて頂きたいです。立野先生のお話はいつ聞いても未来志向で、日々進化している話を聞けるので楽しみです。是非ともよろしくお願いします。

- ・ アザレアネットが大切だと思った。
- ・ ID Linkの将来性
- ・ 栄養情報連携書について はこだての連携
- ・ ICT活用の急務

・ 質疑応答

・ 栄養管理については院内だけの連携だけではなく、施設等の多くの期間やアザレアネットを利用した他の病院との連携も大切であることが理解できた。

- ・ アザレアネットについて

・ アザレアネットで全国の医療機関が広がるのが大切だと思う。

・ セキュリティにかんしてどの程度の安全性があるかは判らなかった。

- ・ 情報提供(アザレアネット)システム化すると便利だと思う。

・ 栄養管理の複雑さとそれに対応するための努力に感動しました。

・ 施設内のみでなく行政とのリンクも可能なシステムは将来性があってよいです。

・ アザレアネットととびうめネット両方を使えるのか。

・ それぞれに導入費用が掛かるのか費用面が気になった。

- ・ アザレアネットの今後の進化について知ることができた。

- ・ ID Linkの有用性について

・ 栄養情報連携書を活用されている事。ID Linkを初めて知りました。患者さんにとって良いことなので素晴らしいと思います。

- ・ ネットの情報開示を久留米市近辺では進められていること。

- ・ ID Linkというのがあり、他の病院・施設から情報を閲覧できるということが印象に残った。

- ・ アザレアネットはすごく便利 高木病院にも導入して欲しい。

- ・ 当院でも使えそうなところは取り入れたいです。

- ・ 病院側の取組を聞いて良かった。

- ・ アザレアネットの活用をすることのメリット、利便性を改めて知ることができた。

・ アザレアネットが他の地域にも広がって欲しい。

- ・ 病院、在宅の連携がもっと良くなるといいなと思いました。

- ・ 早期栄養介入、栄養サポート回診、栄養情報連携書、アザレアネット (ID Link)

- ・ 病院の実際の栄養指導や多職種連携など伺えて良かった。また、dxの推進の必要性を再認識できた。

- ・ まず口の中を確認することの大切さと、相手からの聞きとりの難しさ

施設と病院間で食事、栄養の情報共有がまだまだ不足している部分があるので、互いに協力、情報提供の

- ・ 重要性を改めて感じた。また、アザレアネットは介護福祉の現場でも必要な情報を見ることができるので、施設での活用を提案したいと思った。

6. 今後の研修等のテーマ

- ・ 災害対策、高齢者の地域の活躍支援、街の会社や事業所を巻き込んだ地域包括ケアシステム、小児-若年成人-高齢者へと世代を繋ぐシームレスな地域包括ケア、移行期医療の課題
- ・ 受け入れ側の施設に対するICT活用方法
- ・ 今後の発展に期待してます。
- ・ 在宅での疼痛管理（ガン患者）、病院からの在宅（終末期の方で訪問看護を利用する方について、病院看護師ができること）